

日本旅館協会 2012年度秋季 旅館営業概況調査

定員稼働率は平均37.8%に

対象期間＝2012年9～11月 回答＝222軒

地域・規模別営業概況

▲＝マイナス

Table with columns for region (e.g., 北海道, 東北, 関東), scale (大規模, 中規模, 小規模), and metrics for total accommodation price, accommodation price, and staff utilization rate for 2011 and 2012.

北陸信越など減少目立つ

日本旅館協会(佐藤義正会長)はこのほど、会員旅館・ホテルを対象にした2012年度秋季(9～11月)の営業概況調査の結果をまとめた。主要観光地に所在する宿泊施設を対象にした四半期ごとの調査で、今期の回答施設数は222軒。定員稼働率は前年同期の数値に届かず、中国、北陸信越で低下が目立った。全国平均では総宿泊単価が微減、宿泊単価が微増だった。東日本大震災、原発事故の影響を受けていた前年同期から回復がみられるが、全体として宿泊市場をとりまく状況は厳しさが続いている。

総宿泊単価の平均は微減

日本旅館協会では、秋季のマイナス要因として、①9月の異常な猛暑で、定員稼働率が前年同期を下回った地域は、北海道(2.7%増の33.6%)と中部(2.2%増の34.4%)、②インバウンド客の減少④団体客の低迷などを挙げて、定員稼働率は、全国平均が37.8%となり、前年同期比で1.1%減となった。9月別では9月が10.2%減の37.4%、10月が同3.9%減の43.1%、11月は同0.6%減の43.7%だった。総売上高を宿泊人数で除した総宿泊単価は、全国平均が前年同期比0.6%減の1万1217円、小規模は同0.5%増の1万2097円だった。冬季(12年12月、13年2月)の見通しについて、日本旅館協会は「悪気は低減や節約意識の浸透から予測できず、正月以外は低調で先が読めない」という旅館が多い。開業予約に期待するも、中小旅行会社の送客も減少している旅館も多く、厳しいと予想している」と指摘した。

施設規模

大規模：客室数80室以上
中規模：客室数30～79室
小規模：客室数29室以下

調査項目

総宿泊単価：3カ月の宿泊料と館内販売などの総売上高を宿泊人数で除した金額
宿泊単価：3カ月の1泊2食宿泊料および室料を宿泊人数で除した金額
定員稼働率：3カ月の総収容定員に対する宿泊人員の割合

月別営業概況

▲＝マイナス

Table showing monthly business overview with columns for month (9月, 10月, 11月), region, scale, and metrics for total accommodation price, accommodation price, and staff utilization rate.

主要観光地別営業概況

▲＝マイナス

Table showing business overview by major tourist area with columns for area (e.g., 北海道, 東北, 関東), specific location, and metrics for total accommodation price, accommodation price, and staff utilization rate.